

ドクター・グーグルの登場で医師の権威はどうか？！ 「シノベイト 医療に関するグローバル意識調査」

グローバル・マーケティング・リサーチ会社のシノベイトは、世界12ヶ国、9,642名（日本は含まず）を対象に、医療に関する意識調査を実施いたしました。

主な調査結果

- 1) 病院に行かない？ -ロシア人、セルビア人
- 2) 医師の診断を受けるならオランダ
- 3) 自然薬品志向のロシア人とドイツ人
- 4) 漢方薬やハーブの利用は少ない
- 5) 「単なる情報源の一つ」になりつつある
カナダの医師
- 6) ドクター・グーグルの登場！



◆調査概要

実施機関: シノベイト

実施時期: 2008年3月～4月

対象国(12カ国): ブラジル、ブルガリア、カナダ、ドイツ、インド、マレーシア
オランダ、ロシア、セルビア、スロバキア、トルコ、アメリカ

対象者: 9,642名

1) 病院に行かない？ - ロシア人、セルビア人、トルコ人

体の不調を感じた時、どのくらいの頻度で医師の診察を受けるか、という質問に対し、全調査対象者の大半が年に1～3回だと答えた。しかし、ロシア、セルビア、トルコでは、対象者の3分の1が過去一年間に一度も医師の診察を受けなかったと答えている。シノベイト・ヘルスケア・ロシアのアントン・ティメルギャリエフは、その理由を次のように述べている。

「まず、ロシアの医療制度の質の低さが挙げられます。医師の診察を受けるのに、最低でも半日はつぶれてしまうのです。次に、ロシアでは通常、処方箋なしで処方薬が買えることが理由として挙げられます。例えば、抗生物質も市販薬と同様に買うことができるのです。」

一方、ドイツ人は健康意識が高く、年間に医師の診察を受ける回数が他のどの国よりも多いことがわかった。ドイツでは、調査対象者の半数が、年に4回以上、医師の診察を受けると答えている（10回以上と答えた人は実に17%！）。シノベイト・ヘルスケア・ドイツのマンフレッド・エーベルラインは、次のように分析する。

「経済的要因もさることながら、トルコ、マレーシア、インドなどに比べ、ドイツの国民平均年齢が非常に高いことが理由として考えられます。年を取れば、当然、健康上の問題が多く出てきます。また、ドイツの医療制度は、総合保険制度を導入しており、非常に優れています。さらに、医師たちは、一人でも多くの患者を治療するように、報奨制度で奨励されています。」

2) 医師の診察を受けるならオランダ

では、医師の診察についてはどう感じているのだろうか？ 全調査対象者の3分の1が、医師は患者に対して十分な時間を割いていないと感じており、これは、ロシア人(57%)とマレーシア人(55%)で、強く感じられている。

オランダでは、対照的に、患者のために割く時間が不十分と感じている人はわずか8%だった。シノベイト・オランダのディレクター、ライニア・ホイティンクはこう説明する。

「オランダ人は医療分野に関して、非常に批判的な傾向にあります。一般開業医に対してはととても好意的です。患者一人一人をじっくり診察できるよう、一般開業医の数が十分に確保されているからです。」

3) 漢方薬やハーブの利用は少ない

中国古来の漢方薬やハーブ、鍼療法、催眠療法、瞑想、マッサージなどの代替医療に関しては、全調査対象者の大多数(83%)が、過去一年間にいずれの代替療法も利用していないことが明らかになった。

セルビア人に至っては、西洋医学だけでなく、代替療法も避けているようで、92%が過去一年間に代替療法による治療を受けようとしなかったと答えている。対照的に、インド人とカナダ人は、12%が過去一年間に4回以上、代替療法を利用している。シノベイト・ヘルスケア・インドのモニカ・ガングワニは、この調査結果は理にかなっているとし、こう語っている。

「インドでは、伝統的に自然薬品やハーブ製品が治療目的に使われています。その理由として、自己治療が主流であり、日々の健康管理は代替療法や家庭療法に強く依存していることが挙げられます。また、アーユルベーダを使った治療法が深く根付いていることも重要な理由の一つです。興味深いことに、アーユルベーダは最近さらに治療法としての認識を高めつつあります。代替療法は、『安全である』、『副作用がない』と考えられており、西洋医療のように即効性はないけれども、ゆっくり長く続く効能がメリットとして認識されています。」

4) 自然薬品志向のロシア人とドイツ人

使用する薬は、化学薬品と自然薬品とどちらが好ましいかを尋ねたところ、全調査対象者の過半数が自然薬品の方が好ましいと答えた。特に、ロシア人はその傾向が強く、3分の2が自然薬品派であることがわかった。

「たった100年前までは、ロシア人の大半は農村部に住み、自然薬品が常に手元にあるような暮らしをしていました。都市化は急速に進むものの、古くから続く習慣は今も人々に根付いているようです。」と、先述のティメルギャリエフは分析している。

また、化学薬品が簡単に入手できるにもかかわらず、ドイツ人の多数も自然薬品を支持している。これはロシアの事情とは明らかに違う理由からと考えられる。先述のエーベルラインはこう語る。

「ドイツには、昔から自然薬品を使う習慣があります。化学薬品は深刻な病気の治療のためには重要ですが、風邪やアレルギー、情緒不安定、神経過敏、不眠、スポーツによる負傷など比較的軽い症状に対しては優しく、ゆっくりと心身に効いて行くハーブ療法などが選ばれる傾向にあります。また、この調査結果の要因として、ドイツ人は健康への関心が非常に高いこと、自然薬学を学ぶ医師たちが増え、彼らが化学薬品を処方するだけでなく、代替療法へのアドバイスもできるようになっていることが考えられます。」

インド人(62.9%)とトルコ人(60.3%)は、反対に、化学薬品を選ぶ傾向にある。インドでは代替療法が一般的であるにもかかわらず、人々は化学薬品を希望している。しかし、経済的理由から化学薬品を選びたくても選べないというのが実情であるようだ。

非化学薬品療法である代替療法に関して疑念を持つ人、支持する人の割合は、アメリカ、ブラジル、ブルガリア、カナダでほぼ二分という結果となった。

5) カナダ人にとって医師は「単なる情報源の一つ」

現代の情報化社会は『患者力』を急速に押し上げており、もはや医師たちは、権威としての存在ではなくなりつつある。

かかりつけの医師をどう見ているかという質問に対し、調査対象者のほとんどが、『尊重すべき意見を持つ知識あるアドバイザー』と答えている。一方、医師たちが、従来の『絶対的権威』として見られているのは、ブルガリア(59%)、セルビア(37%)、トルコ(37%)のみだった。

注目すべきはカナダ人で、実に59%が医師を『単なる情報源の一つ』と考えていることが明らかになった。さらに興味深いことに、カナダでは、『医師の指示には疑うことなく従う』と答えた人は皆無だった。シノベイト・ヘルスケア・カナダのオットー・アッカーマンはこう説明する。

「カナダでは、健康管理や治療法の選択で、医師以外の医療サービス提供者の役割が増えています。カナダ人は医師の指示について、薬剤師に相談する傾向があります。さらに、医師不足の問題や、州によっては患者から医療相談を受けたり、処方箋を書いたりする権限が薬剤師に与えられていることもあり、医師を単なる情報源の一つと考えるカナダ人は今後も増えていくでしょう。」

6)ドクター・グーグルの登場！

医師以外の情報源は何だろう？調査対象者の4分の1が、第一情報源は医師以外と答えている。また、約半数が、医師が処方する薬について、自分で調べて、効能が確認できた場合だけ、その薬を使用すると答えている。この傾向が最も強いのは、マレーシア人(82%)であった。

医師以外の主な情報源としては、全調査対象者の8%が家族や友人を第一情報源として挙げている。特にマレーシア人(18%)、ブラジル人(16%)、ロシア人(14%)はこの傾向が強い。また、全調査対象者のほとんどが、自身の健康について、薬剤師や看護師よりも家族や友人に相談すると答えている。もう一つの重要な情報源は、インターネットだ。全調査対象者の5%がインターネットを第一情報源として使っている。この傾向が強いのは、スロバキア人(16%)、オランダ人(15%)、アメリカ人(10%)である。先述のホイティンクはこう語る。

「オランダでは、一般開業医の権威が保たれているものの、彼らが『ドクター・グーグル』に存在を脅かされていることも事実です。『ドクター・グーグル』とは、患者たちが自己診断の手段として、グーグルを使うことを指します。」

しかしながら、「自身の症状については、インターネット上の情報で解決するので、医師の診察を受ける回数が減った」と答えた人は、全調査対象者のわずか18%にすぎなかった。この平均を上回ったのはスロバキア(36%)、ロシア(30%)、アメリカ(25%)、マレーシア(25%)だが、インドとブルガリアでは同様の回答をした人は皆無だった。

意外なことに、看護師を第一情報源として挙げる人は全調査対象者の1%と、最も少なかった。

シノベイト・ヘルスケアCEOのマイケル・スペディングはこう結論づける。

「医師以外の情報入手経路が発達するにつれ、患者たちはより多くの知識を得るようになり、医師が及ぼす影響力は今後さらに小さくなるでしょう。」

シノベイトについて www.synovate.com

シノベイトはAegis Group plcのマーケティング・リサーチ部門として、世界63カ国に広がるネットワークを駆使し、クライアントに必要なグローバル・サポートと総合的なマーケティング・リサーチ・サービスを提供しております。

[内容のお問い合わせ]

シノベイト株式会社 担当: 山口 真理子

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

TEL **03-5408-5473**

FAX **03-5408-3851**

E-mail **japan@synovate.com**